



トピックス

「世界湿地の日」記念イベントで、ウトナイ湖の冬を楽しむ

毎年2月2日は「世界湿地の日(World Wetlands Day)」。湿地の保全と利用に関する「ラムサール条約」が1971年のこの日に締結されたことを記念するもので、本条約について広く伝える活動が世界各地で行われています。当センターでは今年もさまざまなイベントを開催しました。ご紹介します。

【冬の湿地をスノーシューで探検しよう！】

環境省のアクティブレンジャーが挨拶した後、まずは観察できそうな野鳥や動物の足跡などを日本野鳥の会のレンジャーが写真で紹介。18名の参加者は、当センターのウッドデッキでスノーシューに履き替え、いざ出発！ 自然観察路から外れ、ふだんは入れない林の中を進みました。



雪の上に残った足跡を紹介するアクティブレンジャー



結氷した湖の上で、はいポーズ

歩き始めはぎこちなかった皆さんの足取りも、慣れるにつれてスムーズに。途中では樹木の冬芽、キタキツネの足跡、キツツキ類の掘った穴などを観察しました。その後、スノーシューを脱ぎ、「ハンノキのテラス」から結氷した湖に下り(注)、凍った湖の上でオオワシやオジロワシの姿を楽しみました。皆さんにとっては探検気分を十分に味わう半日となったようです。

注)今回はセンターの主催イベントとして特別に、安全を確認した上で湖の氷上を歩きました。通常は立ち入ることはできません。

【冬を楽しむミニツアー】

2月の毎週土・日曜日および祝日、午前11時からと午後2時からのそれぞれ約30分間、「冬を楽しむミニツアー」を開催しました。日本野鳥の会のレンジャーと、当センターのボランティアさんが冬の湿地をご案内。計16回行なったツアーには137名の参加があり、エゾリスやエゾシカの足跡、オオワシやオジロワシ、日によっては、自然観察路脇から飛び出して氷上を歩くキタキツネなどに会えました。



エゾリスの足跡を紹介するボランティアさん

【湿地クイズラリー】

「ラムート君からの挑戦状！」と題し、湿地の自然に関する5個のクイズを館内に用意しました。頭をひねりながら解答用紙に記入いただき、答え合わせをした後、当センターのオリジナル「特製しおり」をプレゼントしました。

【雪のすべり台や工作】

今年は、当センターのウッドデッキ横に、雪を固めた「すべり台」が初のお目見え。環境省の職員が先頭に立って完成させた、血と汗と涙？の結晶です。子どもたちが遊び始める前にはエゾリスも様子を見に来ていたようで、たくさん足跡が残っていました。また、2月3日は館内に工作コーナーを設け、木の枝や落ち葉を使った作品づくりを楽しんでいただきました。



雪のすべり台で遊ぶ子どもたち



【自然観察路情報】 2019年2月7日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

オオハクチョウ、ホオジロガモ、トビ、オオワシ、ハシブトガラス
シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、種不明キツツキ類(木を掘った跡)

《植物》

イボタノキ、メギ、キハダ、ハンノキ(以上、実)、エゾニワトコ、キタコブシ、ホオノキ(以上、冬芽)
バッコヤナギ、イヌコリヤナギ(以上、すでに綿毛の芽が出る)
ハンノキ(開花前の雄花の穂)、ミズキ(赤い枝)

《ほ乳類・その他》

キタキツネ、エゾリス、種不明ネズミ類(以上、足跡)
エゾリス(古巣・雪を掘った跡)、マイマイガ、オビカレハ(以上、卵)



オオハクチョウ



キタコブシ(冬芽)



オビカレハ(卵)

【水鳥カウント調査結果】 2019年2月15日(金) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類、水辺の鳥 *()内は個体数、(±)は「前後」の意味

コブハクチョウ(4)、オオハクチョウ(8)、オカヨシガモ(3)、ヨシガモ(3)、ヒドリガモ(19)
マガモ(8±)、ホオジロガモ(6)、ミコアイサ(1)、カワアイサ(5)、カイツブリ(2)
トビ(4)、オジロワシ(1)、オオワシ(5)、ハクセキレイ(1)、種不明カモ類(7)

オオワシ



3月の自然予報

今季は真冬日が10日間ほど続きましたが、その後の暖かさ
で、湖の氷どけは例年どおりのようです。開水面が広がるにつ
れ、多くの水鳥が羽を休めるようになるでしょう。

ロシアに帰る途中のマガンが立ち寄ります。数万羽となるピー
クは3月20日前後ではないかと予測しています。

魚などが探しやすくなるのか、湖の氷がとける3月はワシ類の
個体数が多くなり、オオワシ、オジロワシともに10羽以上が確
認されることも。氷上にぽつんと下りていることが多いようです。

林では繁殖期を迎えたシジュウカラやハシブトガラスのさえずり
が聞かれるでしょう。



わずかとなった湖の氷上に下りるオオワシ(右)



早朝、湖周辺の採食地へ向かうヒシクイ



ふくらんできたエゾニワトコの冬芽

積雪の少なかった今冬、雪どけも早く進みそうです。アキ
タブキのふきのとうのほか、下旬にはナニワズムの黄色い花
が地面に見られるかも知れません。

シラカンバと同じ仲間のハンノキは、雄花の集まった穂が
伸び、開花するでしょう。花粉症の方はご注意ください。

ちょっとした水たまりには、エゾアカガエルの卵塊も見ら
れるでしょう。

【 オオワシ(風切羽) 】

雪の上に落ちた大きな羽根。オオワシの風切羽(翼を構成する一連の羽根)です。並べた定規をご覧ください。約 30 センチと非常に長く、翼の先端側にある次列風切羽と思われる。野鳥は少なくとも年に 1 回は換羽するため、中にはこのように落ちた「大物」を発見できることもあります。



*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. ウトナイ湖の氷がとける 3 月は、ワシ類を良く観察できます。さて、ワシ類に関する次の説明のうち、正しいのはどれでしょう。

- (あ) オオワシ、オジロワシともに、北海道で繁殖する。
- (い) オオワシは北海道で繁殖するが、オジロワシは繁殖しない。
- (う) オジロワシは北海道で繁殖するが、オオワシは繁殖しない。
- (え) オオワシ、オジロワシともに、北海道では繁殖しない。



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

オオワシ



2018年 12月 5日 くもり

苫小牧市内の川の近くの側道でうずくまっているところを発見、保護される。

13:30 保護センターに搬入。自力で立てないほど衰弱していた。

診察の結果、左翼付け根部分に若干の出血があったが、触診では骨折等の所見はなし。

開口呼吸をしていたため、呼吸器の損傷を疑う。絶対安静とし様子を見ていたが、時折大きな鳴き声を発して暴れるようになる。

16:00 容体が急変し、死亡。

オオワシ (タカ目タカ科)

北海道には冬鳥として渡来し、主に道東で越冬します。翼を広げると2m50cmにもなる日本最大のワシです。兎類を主食としますが、水鳥を捕食したり、哺乳類の死骸を食べることもあります。道東では、鉛弾を使った違法な猟で死んだエゾシカを食べたことによる、中毒死が問題となっています。国の天然記念物。

イベント情報

自然案内ボランティア募集説明会 & ちょこっと活動体験

日時：3月10日(日)10:00～12:00

定員：先着10名(高校生以上)

申込み：3/1から前日まで

内容：当センターでのボランティア活動について説明します。また、その活動の一つである「自然案内」を体験いただきます。



ウトナイ湖・春の渡り鳥ウォッチング ～水鳥たちの姿を楽しもう～

日時：3月17日(日)13:00～15:00

対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

定員：先着20名

申込み：3/1から前日まで

内容：この時期にウトナイ湖を経由して繁殖地へと向かう冬鳥ー特にカモ類やハクチョウ類といった水鳥、オジロワシやオオワシなどを観察します。これらの多くは動きがゆったりとしており観察しやすく、バードウォッチング初心者の方にもおすすめです。



市民ギャラリー

「苫小牧の自然写真展」

日時：3月6日(水)～3月28日(木)

展示：苫小牧市環境生活課



「傷病鳥獣救護記録展」

日時：2月5日(火)～3月3日(日)

展示：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

